



みんなでまなぶ

ぼうさい

せいかつ



指導用解説

## 教員のみなさまへ

日本は世界有数の地震国です。1995年に起こった阪神・淡路大震災や2004年の新潟中越地震も記憶に新しいことでしょう。さらに近年では東海地震も心配され、国民が防災について考える機会は増えていると言えます。しかしその一方で幼少期の子供たちの防災意識の啓発、防災教育はどうなっているのでしょうか。私は卒業研究においてその実態を探り、遊びの延長で防災について学べる年齢である小学校低学年（1・2年生）における効果的な教育方法を見出し、学校教育において防災についての知識の植え付けをさせるとともに、興味を持たせ、自ら学ぶ動機付けができるツールとしてこの生活科副読本を作成しました。防災教育を避難訓練に頼ってしまっている学校が多いなか、この副読本を利用して、生活科という教科の中での新しい防災教育ができればと考えています。

副読本の内容は、文部科学省の掲げる生活科の目標である『具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及ぶ自然とかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う』ことと、防災について体験を重視しながら学ぶことの共通点に注目し、実際に外に出て、観察したり、考えたりしながら防災の知識を体得していくものとししました。生活科教科書に沿って学習できるものとしてありますので、関連する単元のところで学習していただければと考えております。

この防災副読本は学校教育の生活科で扱うこととしましたが、実際の被害を防ぐには、家庭での防災対策も必要不可欠になってきます。そこで、学校での教育とは別に、宿題などの形で家庭での防災対策などを学習する項目も設けてあるので、そちらも活用していただき、総合的な防災教育を行えることを目標にしています。

具体的な内容については、次ページより説明してありますので、そちらを参考にしてください。この副読本が学校やその周辺における防災対策を見直すよいきっかけになり、今後の防災教育、子供たちの生活に役立つことを心から願っております。

## p.1 じしんってなあに？



ねらい

この項目では子供たちに地震の存在を理解させるとともに、これから学習する防災についての予備知識として、地震の被害を簡単に伝える。

キーワード：地震・揺れる

### ★地震とは・・・★

地面がゆれること。

マグマが上がってくる時や、とてもゆっくりと動いている地殻（足の下にある岩の板）が変形に耐えられなくなると地震が起きる。

地震が起これると家屋の倒壊や火事が起これる。

新潟県中越地震のことなどを思い出させながら話すとわかりやすいと思われます。

### ★地震の被害★

写真1：家屋半壊。ブロック塀も崩れている。・・・阪神・淡路大震災の様子

イラスト1：地震によって火事も起これる。

### ★地震対策★

写真2：防災頭巾 児童たちにも身近なもの、頭を守る

※ここではあまり詳しい説明をするのではなく、これから学習するものへの興味を持たせ、意欲的に学習するきっかけになればと考えています。

p. 2～3 学校たんけん



ねらい

この項目では子供たちに校内での防災対策にどのようなものがあるかを理解させ、その役割を認識させる。教室で地震が起こったときの対処について学習する。

キーワード：消火器・非常口など

指導要領：1

生活科教科書：学校を探検する

★校内での防災対策と指導内容の例★

写真1：消火器→火を消し止める器具 ピンを抜く→ホースを持つ→レバーを握る

写真2：消火栓→火事を消すための水道のせん。ホースをつないで水を出す。

写真3：非常口→火事や地震など非常の場合に逃げ出すための戸口。校内のどこにあるか確認する。

その他：避難はしご→階段から避難できない場合に使う非常用のはしご。避難訓練での実演も可能。

：防災頭巾→落下物から頭を守る。

：防災倉庫→倉庫の見学、中身・備えの量の認知など。

：カンパン→非常食・水 非常のときの食料、飲料が確保してある。

★教室で地震がきたら？★

1. 机の下に体を隠す。(机の脚をしっかり持つ。) 防災頭巾をかぶる。
2. 地震経路を確保するために、戸を開ける。
3. 揺れがおさまったら、外に出る。戸は、閉めない。先生の指示に従う。
4. 外に出るときは、落下物に注意する。
5. 避難時は おさない：はしらない：しゃべらない：もどらない

※避難訓練の予習、復習のつもりで学習してもらえばわかりやすいと思います。

p.4～5 あぶない時どうするの？



ねらい

この項目では学校生活の様々な場面で地震が起こった時を想定し、危険な物は何か、どういう対策、対処方法が必要かを知ることを目的とする。また、それぞれの場面での避難方法も覚えてもらいたい。

キーワード：お・か・し・も

指導要領：1

生活科教科書：2年生の内容で校内で行うもの全般

★場面ごとの避難方法★

- ① 校庭にいる時：遊具や建物から離れ、頭を守って校庭の真ん中に集まる。
  - ② 動物の世話をしている時：小屋から出て、建物から離れ頭を守って校庭の真ん中に集まる。
  - ③ 運動会：校庭の遊具や用具から離れて、頭を守って校庭の真ん中に集まる。
  - ④ 給食中：机の下に体を隠す。（机の脚をしっかりと持つ。）防災頭巾をかぶる。
  - ⑤ 階段にいる時：直ぐにその場を離れ、近くの教室のつくえの下に入る。ゆれがひどいときは頭を守り、足を滑らせないように手すりなどをしっかりとつかんでしゃがみ込む。
- 体育館にいる時:体育用具のそばを離れ、中央に集まって腰をおろし手で頭を守る。
  - 屋上にいる時：揺れがおさまるまで中央に集まって腰をおろす
  - 廊下・昇降口にいる時：直ぐにその場を離れ、近くの教室に入る  
教室が近くないときは窓や蛍光灯から離れて頭をまもる

★おかしもについて★

お：おさない…前の人を押すと転んでしまい危険。

か：かけない…走るとつまづいたり転んだりしやすい。前を見て落ち着いて歩く。

し：しゃべらない…しゃべっていると先生の指示が聞こえない。

も：もどらない…火事が起こっていたり、落下物があって危険。

**つう学ろ こうえん  
たんけん**

写真1

② みちにいるときじしんがきたらどうするの？

写真2

② こうえんにいるときじしんがきたらどうするの？

写真3

写真4

みちでは・・・  
あたまをまもって  
あぶないものから  
はなれよう

こうえんでは・・・  
あたまをまもって  
まんなかにあつまろう

見つけたものどほしょ・やくわりをかいておこう

なまえ	あったほしょ	やくわり

**ねらい**

これらの項目では子供たちに校外での防災対策にどのようなものがあるかを理解させ、その役割を認識させる。通学路で地震が起こったときの対処について学習する。

キーワード：消火栓・避難場所など

指導要領：1・4

生活科教科書：学校のまわり、通学路などを探検する。公園に行く。

**★通学路・公園での防災対策と指導内容の例★**

写真1・2：消火栓→火事を消すための水道のせん。ホースをつないで水を出す。

写真3：防災ポスター→内閣府がコンクールを行っている。図工での取り組みが可能。

写真4：防火水槽→防火水利のひとつ。消火に使う水をためておく。

その他：防災倉庫→災害に備えて各市町村が準備している資材をしまっておく倉庫。

可能であれば中身を見せてもらいたい。

**★通学路で地震がきたら？★**

1. その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をかばんなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
2. ブロック塀や自動販売機などには近づかない。

**★公園で地震がきたら？★**

遊具などの危ないものから離れ、頭を守って広場の真ん中に集まる。

**おうちの人にもきいてみよう**

おうちの人ときょうりょくして  
ひなんぶくろの用いをしよう

かんぱん かいちゅうでんとう 水 くすり  
ラジオ トイレットペーパー かんでんち ぐんて  
ひつようなものを書いてみよう


じぶんやかぞくのこことを  
かいておこう

じぶんのじょうほう

じゅうしょ	
なまえ	
でんわ	
けつえきがた	

かぞくのれんらくさき

なまえ	かいしゃ・がっこう	でんわ

おうちのひとはなればなれになった時に  
あつまるどころはどこかな？

--

**ねらい**

この項目では、家の中で子供たちが自分の役割を見つけることを目的とし、一例として非常持ち出し袋の準備を課題とする。今まで学んできた防災の知識を活用し、必要なものを考え、用意をすることで、防災に対する意識を高めるとともに、自立の心を芽生えさせる。

また、家での防災対策を探したり、いざというときに家族みんながあわてずに行動できるよう、話し合いをしたりすることで、子供たちの防災意識の向上をはかることを目的とする。家に持ち帰って書き込みする。

キーワード： 家族・防災会議・非難袋

指導要領： 2・3・8

生活科教科書： 家の手伝い・自分の役割など

**★避難袋の用意★**

家庭において親御さんと協力して非常持ち出し袋の用意をする。すでに準備のあるご家庭では、内容物の確認、必要なものの再検討などを行う。また、そのほかに災害のときの家族それぞれの役割を決めておくことも大切である。

**★非常持ち出し品の例★**

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルメット,防災頭巾</li> <li>毛布,寝袋</li> <li>タオル,石鹸</li> <li>マッチ,ろうそく,ライター</li> <li>軍手</li> <li>懐中電灯</li> <li>ラジオ</li> <li>救急箱,常備薬</li> <li>飲料水,食料</li> <li>ナイフ,缶切り</li> <li>着替え</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ちり紙</li> <li>現金</li> <li>ロープ</li> <li>乾電池</li> </ul> <p>など</p> |
|--|---|

非常食・・・3日分

飲料水・・・一人一日3リットル×3日分

あると便利なもの

- |   |           |
|---|-----------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェットティッシュ</li> <li>ラップ</li> <li>トイレットペーパー</li> <li>マスク</li> <li>ビニール袋</li> <li>テント</li> <li>笛</li> </ul> | <p>など</p> |
|---|-----------|

### ★連絡先の確認★

児童が一人のときでも自分の名前、住所、電話番号、血液型がわかるよう、書き込みを行う。また、家族で話し合いを持ち、緊急時の家族の集合場所を決め、家族の勤め先や学校の連絡先を教えてもらう。書き込みをする。

※主に宿題として家に持ち帰り、家族で話し合う機会を設けてもらいたい。

## P.10 みんなでたすけあおう



### ねらい

この項目では、救急車の呼び方を学ぶとともに、自分にできることが増えたことがわかり、2年間を振り返って、防災について復習することを目的としている。

キーワード： たすけあう・身を守る

指導要領： 8

生活科教科書： 一年間（二年間）のまとめ

### ★救急車を呼ぶには★

- ①公衆電話や携帯電話から 119 番に掛け、「救急です！」と伝える。
- ②救急車に来てほしい場所を伝える。（目標物など、わかりやすく）
- ③いつ、だれが、どのようになったかを伝える。
- ④「今、どうしたらいいか？」を聞き、通報している人の名前と電話番号を伝える。
- ⑤目立つところで救急車を待ち、救急車が見えたら合図を送る。
- ⑥救急隊を、ケガや倒れている人のところへ案内する。

児童にこれを全て覚えさせることは難しいので、受け答えがでるよう、聞かれたことに応えられるようになってほしい。

### ★まとめとして★

2年間防災について学んだまとめとして、この副読本を振り返り、どのようなことを学習したか、自分にできることはなにかなどを話し合う。まず、自分の身を守ること、そして余裕があれば他人を助けることを知ってもらいたい。子供にもできることとしては火を消す・出入口の確保をする・非常持ち出し袋の確認を行う・助けを呼びに行くなど様々なことが考えられます。



みんなでまなぶ ぼうさい せいかつ

(小学校1・2年生用)

平成17年2月17日 制作

編集 日本女子大学 石川研究室

原 梨恵